

KBI NEWS

〒630-0266
 奈良県生駒市門前町 22-1
 TEL: 0743-70-8600
 FAX: 0743-70-8601
 編集・発行人: 大田裕作
 郵便振替: 01140-6-67708
 銀行: 尼崎信用金庫上ヶ原支店普通 0015453
 Eメールアドレス: kbi-mark117@ares.eonet.ne.jp
 ホームページ: <http://www.kbiwave.com>



神のなさることは不思議

チャペル・こひつじ牧師

鷹取 裕成 師



私はKBIで旧約概論を担当させていただき、毎年一年生の方々から新鮮な刺激を受けています。昨秋には「科学と信仰」という特別授業を担当し、科学の発展によって説明されてきた驚く事実を話す機会をいただきました。

私は中学生の時に、多くの日本人同様、無神論者だったのに、劇的にキリストに出会いました。そんな私にとって、信仰と、真理だと思っていた科学との矛盾

は、大きな葛藤の原因でした。その頃は、科学盲信の時代で、しかも科学が最も無神論的になっていったように思います。私は、科学を否定してでも、キリストを信じようと思いましたが、科学は人間の理性と努力の結晶であり、できれば否定したくないものでした。祈って、京都大学の理学部に入ったのもそのためです。実は、その頃にも、すでに最先端の研究には知られていたのですが、聖書の真理を確証するような事実が、それから四十年の間に、次々に明るみに出されてきたのです。

ひとつは、ビッグバンです。天文学者ハッブルの長年の観察によって、宇宙の銀河がみな遠ざかっていて、しかも、距離に比例して速く遠ざかっていることが発見され、宇宙が膨張してきて、それも一点から膨張してきたことがわかりました。それが、物理学者ルメートルが相對

性理論に基づく厳密な計算によって得ていた結論と一致したのです。神を否定するならば、創造もなく、宇宙が始まりがあるはずがありません。これは、何らかの力によって宇宙が始められたことを示すものです。

ひとつは、DNAです。この四十年間のDNAの研究の発展は驚異的です。細胞には、生物学的な情報の書かれたDNAという長い鎖があり、親から子へコピーされていくのですが、全人類のDNAがすべて同じなのです。同じということは、同じ細胞からコピーされたということです。で、全人類が一つのカップルから生まれたことを示すのです。そのカップルは、二十万年ほど前にスーダン辺りにいたと推測されています。無神論的な科学によって、み言葉が確証されました。神のなさることは不思議

です。

卒業生の証・論文タイトル・派遣先



上段右から
堀伸行
羅泰日
齋藤友良
吉田ゆり
岩井輝子
山田成也

下段右から
山崎琴葉
長谷川みちる
饒平名基喜
廣瀬開



岩井 輝子

この三年間の KBI での学びを通して、私はただただ自分が罪人であること、本当に自分の内側には何もなく、弱くて脆い存在であることを知りました。しかし、そこにイエス様が来てくださった。「私の全ての罪は十字架にあり、キリストと共に十字架につけられている。この私の内に生きておられるイエス様が今日も私の全てとなってくださっている」と、改めて救いの恵みに預かることが出来ました。

この福音の力によって生かされていく感動を携え、世の光として神の宣教の働きに従っていきたく願います。

論文タイトル

触れるミニストーリー
傷付いた女性に全人的に届いていくために

派遣先

鈴鹿キリスト福音教会

齋藤 友良

十字架の福音。KBI に来て自分自身が一番学ばされたことです。入学当初、福音を頭では分かっていたつもりでしたが、どこか自分とは遠く距離のあるものでした。それはそうです、私は自分を罪人とすら思っていなかったのですから。卒業までは四年間かかりました。二年生から三年生の間は大阪の教会での奉仕でした。学びの中で、二年目は認罪を、三年目は悔い改め、四年目はよみがえりを体験します。そのプロセスで、福音は他でもなく私のためだったのだと教えて頂きました。この四年間の全ては無駄ではなく、振り返れば、私が砕かれ福音を実感するのに必要な期間でした。こんな私のためにイエス様は来てくれた。見捨てずに声かけてくれた。私はニッポンが福音で満ちるため、この人生を捧げたいです。

論文タイトル

これからの福音主義の教会形成
インターネットの可能性

派遣先

教会開拓

羅 泰日

二〇一六年、KBI に入るまでの私は、宣教団体に属しており、自分は別にこの学校で神学の勉強以外は訓練することが無いと思いついていました。しかし、クラスの人々、学校の仲間たちと生活していく中で、ぶつかり合っていて悩み、自分の足りなさを感じて落ち込む中で、自分がどれほど高慢であったかを悟るようになりました。そして、大田先生ご夫妻をはじめ一人一人が、神様の素晴らしいご計画で出会ったキリストの体であり、家族であることを悟るようになって平安が与えられ、学校の生活が楽しくなりました。私にとって KBI での三年間の学びは、私が神に用いられるための聖霊による人格形成、与えられた使命への再確認、そして、日本に対する神様の愛と愛が分かる尊い時間でした。

論文タイトル

カルチュラル・ミニストーリー、カルチュラル・ミッション、カルチュラル・ワーシップと日本(世界)宣教(文化による伝道、宣教、礼拝の形成)

派遣先

北鈴蘭台教会

長谷川 みちる

ハレルヤ！KBIでの学びを与えてくださった主に感謝します！私はKBIで「出て行って賛美し、伝道すること」の喜びを知りました。仲間と励まし合って準備し、祈りをもって伝道に出て行く時、いつも新しい出会いと感動がありました。その場で主に心触れられた方や信仰告白される方と喜びを分かち合えたことが、本当に嬉しかったです。時に悩んだりくじけそうになつたりしながらも、どうしたらイエス様の福音を伝えられるか、仲間と共に語り合った時間は、かけがえのない宝です。そして主に信頼し、主に委ねて一歩を踏み出すことを教えられました。これからの人生、賛美をもって、まだ主を知らない人々の元へ福音を運びたいです。新しい地に喜びの祈りと賛美が溢れていきますように。

論文タイトル
礼拝、祈りと賛美

〈主が求められる賛美とは〉

派遣先

西可児キリスト教会

廣瀬 開

「やめよ。私こそ神であることを知れ。(詩篇四十六・十)」このKBIでの三年間の学びを通して、主が語り続けてくださったことは「わたしがあなたを選んだ。あなたは自分の力で何事もつかみ取ろうとしてきたが、あなたに信仰を与えたのも、この献身の召しを与えたのも、あなたをここまで導いたのもわたしである」ということでした。私は学院生活や、共に生活を送る仲間を通して、そんな自分という存在を知ると共に、人とは何者なのかということ、そんな私たち人間に与えられている主の恵みの大きさを知ることができました。この三年間の学びの中で得た教訓を糧に、これからの働きを主と共に、またKBIで与えられた仲間と共に励んでいきたいと思えます。

論文タイトル
福音宣教と賛美の関係性

派遣先

町田純福音教会

堀 伸行

KBIでの学びを一言で表すと「イエス・キリストとの出会い」でした。それまでの自分の信仰はイエス・キリストからかけ離れたものであることに気づかされました。KBIでの生活と学びを通して、私の内側にある罪を発見し、そこに十字架のキリストが来てくださったことを知りました。そして、私が罪人として歩むのではなく、復活したキリストと共に合わされて、復活の命をもつ神の子として歩むことを、神様は願っておられるということが分かりました。また、三年間の中で召しを頂いたことが私にとって重要なことでした。困難や試練を通るたびに召命を確認しつつ、私が今まで通ってきた道もすべて神様が導いておられるという主のご計画に感謝しました。ここまで導いてくださった神様と祈り支えてくださった皆様に心から感謝いたします。

論文タイトル
説教とは

〈語り手と聴き手の共同作業〉

派遣先

I G A上野福音キリスト教会

山崎 琴葉

「十字架はあなたの死んだ場所。復活は生きる場所」キリストにある「安息を知り、長年縛られていた自分自身から解放されて、自由に主に従える喜びに満たされたKBI生活でした。三年間を振り返ると、すべての局面に御言葉が寄り添ってくれました。御言葉は私の杖、御霊を離れては何もできません。ただ御言葉と御霊が私を運んでくださり、神の恵みによって、私は今の私になりました。母教会を始め、たくさんの方々の祈りに支えられて、主の召命を受け取ることができました。まだ福音を聞いたことのない人がいます。人々の癒しと解放のために、神の慰めを届けたい。今日も空っぽの手を差し出します。主の御名にのみ栄光がありますように。羊はその声を聞き分けまます。

論文タイトル

結婚するまでNOSEXを伝えるためにクリスチャンができる性教育のあり方の検討

派遣先

雲井キリスト福音教会

山田 成也

「わたしの羊を飼いなさい。(ヨハネ二十一章十七節)」ペテロのように愚直にイエスに従い、愛し、また裏切ってきた私を、主はこのみことばをもって召し出してくださいました。KBIでの三年間のすべては、牧会者となるための訓練でした。主は自分の弱さ、至らなさ、高慢、傷や痛みなど、様々なものを取り扱ってくださいました。今でも自分の足りない部分を見るたびに、このような者が牧会の現場に出てもいいのだろうかと思えます。しかし、この献身は自分ではなく、主ご自身が根拠となつて立たせてくださるということも学びました。これから牧会の現場に出ますが、大牧者であるイエス様の声を聴き、従っていきたいと思います。

論文タイトル

教会を離れた人から見る牧会

派遣先

箕面福音教会

吉田 ゆり

「神様と人生を歩むことが私にとって一番の幸せである」これが私にとって最大の学びでした。十九歳で入学した当時の私は、自分で自分の人生を切り開いて行きたいと思っていました。また、自分が罪人であるということとが本当はわかっています。たのは二千年前の人たちであつて、私ではないと思っていました。しかし、宮清めの箇所から、自分がイエス様の手に釘を打つた者であるということ、聖霊様に教えていただきました。男女共学の寮生活を通して人間を知り、そして神を知ること。頭だけの神学でなく、キリストに合わされて、キリストを着るといふことを実践していく三年間でした。この世と教会に片足ずつ入れていたクリスチャン生活を圧倒的に変えたのは、ガラテヤ二章二十節の御言葉でした。この御言葉に生きて行きます。

論文タイトル

孤児に目を向けて

「真の働きの必要性」

派遣先

沖繩ザ・クロスチャーチ

饒平名 基喜

KBIの三年間は、既に与えられていた福音の素晴らしさを体験し続けた時でした。KBIに入学した当初は、イエス様に会った喜びで溢れており、KBIは天国と思つた事を覚えていきます。しかし、徐々に自身はどうしようもない姿を見せられ、その度に、キリストの十字架の下に行くことを少しずつ学ばせて頂きました。また原点である、自分自身とイエス・キリストとの出会いに帰ることが、私を励ましキリストに目を上げさせてくださいました。福音のため、そして、イエス・キリストのために働く友であり、同労者に出会えたことは、私の宝です。これからの歩みも、ただ神の恵みによつて神と人と共に歩んで行きます。「ところが、神の恵みによつて、私は今の私になりました。(第1コリント十五章十節)」

論文のタイトル

沖繩の宣教の歴史から見る課題と展望

派遣先

与儀ファミリー教会

修了生 (二月十九日現在)

・本科コース 二年修了

石川 良治 (志度キリスト教会)

渋沢 宝 (峰町キリスト教会)

・本科コース 一年修了

太田 楽人 (ゴスペルシロアム教会)

山中 力 (広畑キリスト教会)

上 迫 みどり (鶴見純福音教会)

笠原 芳恵 (京都ベタニヤチャーチ)

柏崎 静子 (峰町キリスト教会)

・CPRCコース

中山 聖一郎 (岡山チャペル)

大八木 剛 (京都CFセンター)

菅 徹哉 (活けるキリスト高田一麦教会)

菅原 純次 (金津福音キリスト教会)

川端 恵子 (ジーザスハウスチャーチ)

長島 鏡子 (京都CFセンター)

山本 満由美 (奈良福音教会)

・MTCコース 修了生

奥本 耕史 (エレベートチャーチ)

奥本 絵里 (エレベートチャーチ)

石坂 結 (東京グレイス福音教会)

三堂 由貴 (ニューライフキリスト教会)

山中 敬子 (千代田福音教会)

辻井 敏子 (岬福音教会)

(後期受講のみ)

アウトリーチの報告

三年生 堀 伸行

「そこで、彼らは出て行って：主は彼らとともに働き、みことばに伴うしるしをもって、みことばを確かなものとされた。」マルコ十六：二十

キリストに従った弟子のように。それぞれの賜物も違う、体力も個性も役割も違うユニークなメンバー十名と引率者二名が今回タイの地を訪問した。この時期、タイは乾季といってもバンコク市内は東南アジア独特の



暑さ。冬の日本とは全く違う氣候に全員「暑い」と口を揃えた。十一日間の旅で、宣教の現場を見せてもらった。孤児院「GROW」、ドイチヤン村のアカ族などを訪問した。特に印象に残ったのは、麻薬やHIVなどで親と一緒に暮らすことが出来ない子どもたちの姿だった。私たちが何かプログラムをしてあげようと思っていたが、反対に子どもたちに現地の言葉や遊びを教えてもらい、また何より瞳の中に輝く光から励まされた。と同時に子どもたちのために働くスタッフと祈りの必要を感じた。

そういつた現場に神の語り掛けに応答し立ち上がった多くの働き人がいた。全く何もない所から神の使命に立ち、環境や状況ではなく、まず一人の礼拝者としてそこに置かれ、祈りと実際に行動を起していた。神がともに働き御言葉に伴う大きな御業がなされていた。

この三年間、宣教学や言葉の中から宣教とは何かを聞いてきた。そして今回旅を通して実際に神が共に働く宣教を自分の目で見て聞いて肌で感じた。全世界に出て行って福音を宣べ伝えなさい。宣教は宣教師一人の使命ではない。宣教は救われたものすべてに与えられた使命であり、また教会の使命でもあると確信した。

MTCコース

MTC生 石坂 結

十二歳のとき、神様から宣教のビジョンをいただきました。幼い頃から「発展途上国の子どもたちを助けたい」という思いがありました。聖霊に満たされたとき、それが世界宣教のビジョンへと変えられました。衣食住以上に、何を置いても必要なものは福音だと分かったのです。「いつか福音を伝えるために出ていくぞ」と夢見て中学・高校・大学に進み、就職しました。長い間、神様が導いてくださる働きと場所はどこなのかを祈り求めてきました。

今回、宣教師訓練コースを受講し、一つ一つの学びの中で祈りの答えをいただきました。与えられた召命が明確にされていき、私の中に志を立ててくださった主は必ず実現に至らせてくださると信じました。私は、生涯を通して未伝部族に福音を伝え、教会を開拓したいと思います。

マタイの福音書二四章一四節「この御国の福音は全世界に宣べ伝えられ、すべての国民にかしされ、それから、終わりの日が来ます」にあるように、御



国の福音は、すべての民族に証されなければなりません。そして、証されるだけではなく、弟子をつくり、教会を建て上げることが主の御心だと信じます。

今回のコースを通して、宣教のビジョンを分かち合い、共に前進できる仲間や先生方との出会いが与えられたことも大きな祝福でした。また、いつも祈り、世界を祝福する宣教的教会に植えられている恵みを心から感謝しました。これからも導きを求めながら、すべての国民・民族・国語の人々が共に集まり礼拝する姿を夢見つつ、一步一步進んでいきたいと思えます。

B A M (Business As Mission) ミッションとしてのビジネス

元宣教訓練センター委員長

金光石 宣教師



今日の世界はビジネスの世界である。ビジネスは私たちの生活の全領域を掌握した。教育も医療も音楽、文学、アート、映画などのすべてがビジネスの中で存在している。私たちは、このビジネスの世界の中に神の福音を持って行き、福音的な生き方を示すのである。一方で、今や世界の他宗教を信奉する大半の国々では、福音伝道は禁止されている。これらの

国々では、正式に宣教師ビザは発給されない。しかし聖書は、どのような環境でも地の果てにまで福音を宣べ伝えるように命令している。世界宣教の実現のためには牧師、宣教師だけでは全く手が足りない。すべての信徒が宣教訓練を受けて、自分の仕事と賜物を活用して、地の果てにまで出ていき、神の国の福音を伝えるのである。この二一世紀は、すべての信徒が自分の賜物と職業、技術とビジネスを持って、世界宣教のために全世界に出ていくべき時である。BAMは宣教地でビジネスを営みながら、言葉で伝える福音と共に、生活を通して示す福音をもって現地の人々に神の国を体験させ、彼らが神の国の福音を受け入れ、神の民となり、救われて、神を礼拝するようにする世界宣教の戦略である。

全文はQRコードにて、ご覧いただけます。



●二〇一九年度 行事予定●

四月九日(火)

入学式

四月九日～二十七日(土)

三週間コース

六月二十七日(木)～三〇日(日)

宣教ウィーク

七月五日(金)

一学期終了

九月三日(火)

二学期始業

十月一日(火)～四日(金)

前期テスト週

十月七日(月)～八日(火)

神学校協議会 於：KBI

十月二十五日(金)

実践神学セミナー

十一月九日(土)～十日(日)

KBIを覚える日

十二月五日(木)

二学期終了

一月十四日(火)

三学期始業

二月十二日(水)～十四日(金)

後期テスト週

二月十八日(火)～二十七日(木)

三年生アウトリーチ

三月十二日(木)

卒業派遣式

●OB・OG 通信●

●結婚おめでとうございます

二月十一日

山本峻師と長野有花子姉



SNSほぼ毎週更新中

来年度から学びたい、そんなあなたに!
KBIの様子が写真や動画でのぞけます。

インスタグラム・ツイッター
アカウント：@kbi_jpn

フェイスブック
「KBI関西聖書学院」で検索



後輩達に贈る言葉

Vineyard 垂水福音教会
二〇一四年度卒

伊佐治 洋平 牧師

ご卒業おめでとうございます。奇しくも皆さんは平成最後の年にKBIを卒業し、新しい時代の幕開けと共に派遣されて行きます。この年、若き野球選手がスポーツ界の話題をさらいました。投手と打者の二刀流を貫き、見事アメリカン・リーグの新人王に輝いた大谷翔平選手です。彼は大リーグ移籍を決めた時、年俸が上がる時期や名門球団であるかどうかに関わらず、二刀流の挑戦に最適だと思ふ時期と球団を選びました。オープン戦で結果を残せず無謀だと酷評されても、彼は決して自分の信念を曲げませんでした。大谷選手の姿から学ぶこと、それは常識や過去の価値観に捉われず、未知のことに挑戦する意欲。そして自分で課題を設定し、どう乗り越えるかを常に考える姿勢です。卒業後、魂を勝ち取るために戦う福音宣教というフィールドで、その最前線を担う地方教会の働きに携わります。教会には歴史や伝統があり、先達がい

て、求められる働きがあるでしょう。しかし、刻々と変わりゆく時代の中で、いつまでも同じ所に留まっていけません。KBIで培った柔軟で多様なアイディアや価値観で、新たな息吹をもたらすべき時が遠からず来ます。与えられた召命とビジョンを持ち続けてください。御心を追い求めてください。そして今がその時だという聖霊の声を聞いたなら、たとえ無謀だと言われても、前に進むのです。ヤボクの渡りで神様と格闘したヤコブのように、ここが勝負所だという時が必ず来ます。その先に、人の思いを遥かに超えた神の祝福を見るのです。「どこそで新しいことが起こっている!」そんな知らせを楽しみにしています。



南大阪福音教会 二〇〇六年度卒

兼松 道子 姉

卒業・修了生の皆さま、おめでとうございます。卒業・修了までに色々なことがあつたのも、それぞれがKBIでかけがえのない時を過ごされたことと思います。

私が本科に進級する前は、ここで学べばきつと色々なことができるようになって、自分も役に立つ器になれるのではないかと、という勝手な期待がありました。けれども、大切なのは「自分に何ができるか」ではなく、「主がどのようなお方であるのか」また、「主をどのようなお方として知っているのか」だということを知りました。そして、卒業と同じ年の五月からKBIで働きはじめましたが、その中で思ったことは、「主のお取り扱いに卒業なし」ということです。卒業してからも続けてKBIで奉仕させていただく中で、自分の欠けや足りなさ、自己中心性と罪、自分を良く見せたい、守りたいというプライドがある事を、学生のときには気づかなかつたレ

ベルで見せられてきました。「自分はどうだめだ。はじめから召されてなどいなかったのかもしれない」と思うことも度々ありましたが、イエス様はそんな私だと初めからよく知りながら、それでも私のために十字架で死ぬことを選んでくださったのだという事実を思うとき、その愛と恵みに圧倒されるものです。ですから、「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」と言われる方の力に覆っていた大きながら、これからも主と、主の教会と、主が命をかけて愛された一人ひとりの魂を愛して、ご一緒に主にお仕えしていきましょう。





ご献金感謝します

献金者名簿（日付順・敬称略）（2018.11.6～2019.2.10）（KBIへの直接献金分）

■一般会計献金

<KBIを支える会>

個人：川崎里美、井野葉由美、福元玲子、与久田幸春、大田裕作、渡辺とも子、安黒務、黄金井尚美、門谷皖一、斎藤邦夫、兼松道子、小山大三、伊達山洋子、豊村善典、安野清子、石崎政登、辻村順子、山田裕一、伊藤勝利、増永弘、高橋昭市、前田秀文、熊本直美、宮下真由美、菅沼威、松本亜紀子、山本篤、上坂進、兼松千佳子、鶴野英子、北野恒久、田井淳子、大北文広、前田徳治・祥子、安川真知子、田中憲昭、塚原利喜男・真理、酒井哲男、南沢順子、氏名不詳1名

教会 & 団体：鈴鹿キリスト福音教会、奈良福音教会、千代田福音教会、尾上聖愛教会、八尾南福音教会、三国クリスチャンチャペル、神戸ルーテル神学校、旭川神愛キリスト教会、狭山福音教会、チャペル犬山、京都シオンの丘キリスト教会、名護チャペル、生駒福音キリスト教会、可見福音教会、沖縄ザ・クロスチャーチ、ゆうあいちゃべる、西可見キリスト教会、神戸キリスト栄光教会、佐用チャペル、ゴスペルチャーチ千里、峰町キリスト教会、金沢独立キリスト教会、高槻一麦教会

<運営支援献金>

御殿場純福音キリスト教会、岐阜純福音教会、鶴見純福音教会、岐阜純福音大森チャーチ、キリスト福音教会（FFFM）、美濃グレースチャーチ、保土ヶ谷純福音教会、房総中央キリスト教会、ジャパン・ベサニー・ミッション、TPKF イースト、日本福音教会（JEC）、KBI 支援協力会（FCMF 諸教会）、犬山キリスト純福音教会

<特別献金>

1. 「KBIを覚える日」献金（学生・理事・教師派遣先教会以外）

個人：笠原浩和、伊藤光、森敏・雅子

教会 & 団体：志度キリスト教会、大阪みなとコミュニティチャペル、堺福音教会、岐阜純福音教会、TPKF 合同集会、泉南福音教会、勝山自由キリスト

- 宣教師訓練コース(MTC)
- 教会開拓・刷新コース(CPRC)
- 通信教育コース

こちらのコースについては、
事務室までお問い合わせください。

TEL 0743-70-8600
FAX 0743-70-8601

教会、国分福音教会、高富グレイスチャペル、南大阪福音教会、京都クリスチャンフェロシシップセンター、和歌山福音教会、守山キリスト福音教会、ハレルヤサンライズチャーチ、山の辺キリスト教会、浜松汀キリスト教会、町田純福音教会、多聞福音教会、名古屋グレイスキリスト教会、岬福音教会、香芝ゴスペルチャーチ、宝塚福音教会、関西カルバリーフェロシシップ、上郡福音教会、南さつまキリスト福音教会、保土ヶ谷純福音教会、鶴見純福音教会、富士純福音キリスト教会

派遣先 33 教会については前号で紹介。派遣先を含む 64 教会 & 個人の方から 2,524,267 円の献金をいただきました。

2. 建設基金献金

個人：春名裕

教会 & 団体：秦野クリスチャンセンター、岐阜純福音教会

3. アウトリーチ指定

個人：坂下キク子

教会 & 団体：大阪みなとコミュニティチャペル、垂水福音教会

4. その他

個人：ラッセ & レーナ・ヘイモネン、ダイヤモンド金、奥本耕史・絵理

教会 & 団体：八木山聖書バプテスト教会、シオンライフチャーチ、大阪基督生命堂

■奨学基金献金

個人：出原市子、北尾幸枝、金森徹・和子、竹川正英、芝連代、川端黎子、北尾幸枝、森本裕・真美子、中村典子、藤井三紀子

教会 & 団体：伊勢崎神愛キリスト教会、西可見キリスト教会、チャペル犬山、千代田福音教会、堺福音教会

※2018年度より「建設基金献金」は一般会計の特別献金に移行しております。
※KBIへの直接献金分のみ記載しています。各団体に献金して下さっている場合、教会名でなくその団体名を記載しています。どうぞご了承ください。